

スピーカーアキュライザーの導入(15)
—アナログ対デジタル(1)—

1. 始めに

前報(14)までにおいてスピーカーアキュライザーSPA-7の接続方法を検討した結果、アナログ、デジタルとも良好な結果を得てきました。これを受けて、同じ曲でアナログ音源とデジタル音源の比較を行ってみます。

2. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴方法

スピーカーアキュライザーSPA-7の設定条件は前報(2)に述べたとおりとしますが、ケーブルの接続条件を前報(14)のとおり替えています。

試聴音源はマーラーの交響曲3番と5番に固定し、アナログ盤、CD、STAGE+から選択します。

マーラー 交響曲3番

アナログ盤

PHILIPS 802 711-12

ベルナルド・ハイティンク指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

CD

RCA BVCC-38473-74

デヴィッド・ジンマン指揮チューリッヒトーンハレ

STAGE+

クラウディオ・アバド指揮ルツェルン音楽祭管弦楽団

マーラー 交響曲5番

アナログ盤

DECCA 6.48110 DM

ズビン・メータ指揮ロスアンジェルスフィル

CD

RCA BVCC-37715

デヴィッド・ジンマン指揮チューリッヒトーンハレ

STAGE+

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

3. スピーカーアキュライザーSPA-7の試聴結果

アナログ盤はLP-12、CDはEMT981、STAGE+はPC経由で再生します。

ハイティンク指揮アムステルダムコンセルトヘボウのマーラーの交響曲3番のアナログ盤は、ソフトな音でディテールの表現も十分で、広大な空間表現が見事です。ネットで調べると1966年発売とのこと。

ジンマン指揮チューリッヒトーンハレのマーラーの交響曲3番の2006年録音のCDは、CDらしくなく、滑らかで緻密な音で朗々と鳴り響き、これまでのようなデジタル臭さを感じさせません。

アバド指揮ルツェルン音楽祭管弦楽団のマーラーの交響曲3番のSTAGE+は、2007年のルツェルン音楽祭での映像付きの収録です。音質もよく、繊細な弱音から壮大な総奏までこの曲の魅力を伝えてくれています。

以上の3種の音源はスピーカーアキュライザー導入後初めて聴くものですが、このように、フォーマットや収録年代および収録環境を超え、すべて様が変わりしています。さらに、以前のようなアナログとデジタルの差をそれほど感じさせなくなっています。

メータ指揮ロスアンジェルスフィルのマーラーの交響曲5番のアナログ盤は、1977年発売の盤です。当時の若いメータらしい切れの良い迫力ある音で広大な音場感も聴かせてくれます。

ジンマン指揮チューリッヒトーンハレのマーラーの交響曲5番の2007年録音のCDは、音調は先の交響曲3番に似ており、CDらしくなく、滑らかで緻密な音で朗々と鳴り響きます。

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィルのマーラーの交響曲5番のSTAGE+は、収録年代は不明ですが、カラヤンらしい流れるような弱音から煌びやかな総奏までの演出で聴かせてくれます。特に弱音の美しさはアナログのようです。

以上の3種の音源はスピーカーアキュライザー導入後初めて聴くものですが、先の交響曲3番の場合と同様に、フォーマットや収録年代および収録環境を超え、すべて様が変わりしています。さらに、以前のようなアナログとデジタルの差をそれほど感じさせなくなっています。

4. まとめ

3種の音源はスピーカーアキュライザー導入後初めて聴くものですが、上記のように、フォーマットや収録年代および収録環境を超え、スピーカーアキュライザーや仮想アースの効果ですべて様が変わりしています。さらに、以前のようなアナログとデジタルの差をそれほど感じさせなくなっており、LAN伝送ラインにおける仮想アースやLAN iSilencerの効果も感じられます。

以上